

神奈川県立有馬高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記の通り開催しました。

会議名称	令和7年度 神奈川県立有馬高等学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年3月2日(月) 13:40~14:40
開催場所	有馬高等学校 応接室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・湘北短期大学教授(学識経験者) ・有馬中学校校長(学識経験者) ・社家自治会長 ・社家小学校校長 ・同窓会会長 ・有馬高等学校PTA会長 ・有馬高等学校校長 ・有馬高等学校副校長 ・有馬高等学校教頭
欠席者	なし
会議資料	<p>(1) 令和7年度学校評価報告書</p> <p>(2) 研究授業</p> <p>(3) 英検受験者数推移</p> <p>(4) キャリアパスポート</p> <p>(5) 総合的な探究の時間の年間計画</p> <p>(6) 学校の様子(HPより)</p> <p style="padding-left: 2em;">①有輝祭(文化祭) ②43期健脚大会</p> <p style="padding-left: 2em;">③42期修学旅行 ④生徒会選挙</p> <p style="padding-left: 2em;">⑤生徒総会&赤い羽根共同募金活動</p> <p style="padding-left: 2em;">⑥クラス対抗球技大会 ⑦ロードレース大会</p>
議事録	<p>●報告・協議事項</p> <p>○教務より</p> <p>資料1, 2, 3の通り</p>

○キャリアより

資料4の通り

○広報より

資料5の通り

○生徒会より

資料6の通り

○生活支援より

- ・防災キャンプ（宿泊研修）を行った。
- ・時間を守る、服装を正すという指導を重点化している。

○総務渉外より

- ・地域清掃や卒業式などの行事を行っている。
- ・PTAではロードレース大会で豚汁、卒業式ではバルーンアート・花道の花を用意した。

●令和7年度学校評価報告書

- ・ARIMA Challenge, Arima Rubricなど授業での意識の改革を行った。パフォーマンステストを中心とした授業が多くなった。広報を主として学校外で生徒の発表を行うことができた。今後は人前で発表をするということが課題である。
- ・チャレンジ英検を実施。英検を受験させることへのハードルの低下に成功した。今後は合格率が課題である。
- ・学校全体で組織的に生徒指導を行うことができるようになっている。
- ・生徒が自分の特性を可視化することができる体制を作っていく。
- ・2名の業務アシスタントと1名の業務サポーターを置き、業務を分担し、働き方改革を行っている。

●協議

○学校の状況について。志願変更前の倍率が1倍を下がっているが、その点についてはどうか。

私立の助成金もあり全体的に倍率は下がっている。志願変更で倍率は大きく変わるため気にしていない。

学校説明会では有馬の特色を押し出してきた。近いから有馬に来るのではなく、有馬に「来たい」と思ってもらうことが目標であった。特色を押し出すあまり、プレッシャーを感じる中学生がいたのかもしれない。私立の助成金やそれらの特色と合わなかったため、倍率が下がったのではないかと分析している。

○以前あった英語コースを復活することは考えていないか。

英語ももちろんだが、国際交流を続けている。中学生からのアンケート結果でも国際交流に魅力を感じている学生が多いので、今後も国際交流に力を入れていきたい。

○優秀な生徒に同窓会から奨学金を出したい。

何に関しての奨学金かを相談して、学校で基準を作成する。

○AIの活用の指導はどのように行っているか。

AIの指導に関しては特別何かを行ってはいない。生徒がAIの解答をそのまま活用しているだけで終始してしまっているところが難点である。レポート課題をなくしている大学もある。(Chat GPTでのレポート課題が増えたため。)

○ARIMA Rubricは現在どの段階なのか。いま試用段階なのか、それとも実際に授業で行っている段階なのか。

現在は教員が何を生徒にさせたいのかを明確にする段階。総合的な探究の時間や進路指導でもARIMA Rubricを活用した。

○社家小学校では防災訓練、牛乳の廃棄率を減らすために学校外で、社家駅のPR活動、トマトのPR活動を行っているが、手探りとなってい

る。高校との連携をもっと行っていきたい。

○中学校は1割の生徒が長欠となっており、そちらの指導を行っていか
なければいけない状況であり、授業への研究を行うことが難しい。

○その他
特になし。